

伊勢市教育研究所

<第 10 号>



<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成 29 年 12 月 20 日

伊勢市教育研究所

伊勢市桜木町 55-1 (旧さくらぎ保育所)

「伊勢市教育研究所 教育研究プロジェクト」

小俣幼稚園公開保育研究会

♪♪子どもたちの「夢中」がいっぱい♪♪



今年度の教育研究プロジェクト「幼稚園教育に係る実践研究」を小俣幼稚園に委託し、11月10日(金)に公開保育研究会を開催しました。

小俣幼稚園では、平成 25 年度に「健やかなからだを育てるために」を研究テーマに公開保育研究会が開催されました。それから3年が経過した今年度は、当時の研究の流れを踏まえて、「**健やかなからだを育てる～子どもたちが夢中になって遊べる環境づくり～**」を新たなテーマに設定し、「**環境**」に視点をあてて研究が進められています。また、この研究は平成 29 年度伊勢市公立幼稚園協会研究指定、平成 29 年度三重県学校体育研究連合会指定を兼ねて推進されています。

小俣幼稚園が一貫して大切に実践してきたのは、子どもたちの「**健康なからだ(体+心)**」を育てることです。それを実現するための「**子どもたちが夢中になって遊べる環境づくり**」です。中北園長のあいさつに「夢中になって遊べる保育を展開するために、意図的、計画的に「物的環境」を用意することの重要性と、子どもたちへの深い理解と成長発達のとらえに裏付けされた保育者の援助「人的環境」のあり方を考えたい。」とあったその言葉に全てが集約されていました。参観者もワクワクした公開保育研究会でした。



全体会の様子



動物のまねっこ遊び・ダンス



海賊になりきって遊ぶ！

★3歳児★…保育者もなみきる！①

●ばなな組

「トンネル」を次の活動のつなぎに活用し、その出口に魔法のじゅうたんを敷いて、嵐の間、安心して待つための場所になっていました。床には動物の足跡が貼られており、ワクワクする**環境**が整えられていました。子どもたちは動物になりきったり、自分で考えた動きを楽しんだりして**夢中**でした。

●めろん組

衣装を身に付けて「海賊に変身」することから遊びが始まりました。子どもたちは冒険を通して様々な動きを経験していました。その中には、友だちと力を合わせて岩を動かしたり、宝物を見つけたりする臨場感たっぷりの**環境**が整えられており、**夢中**になって遊ぶ姿がありました。

★4歳児★…保育者もないきる！②

●こあら組

部屋の真ん中の大きな木は圧巻でした。最初に、子どもたちと作った「地図」を広げ、地図にかかれた道を通して冒険に出かける確認をしました。冒険への期待感を高めたり、イメージを膨らませたりする環境ができていました。

「バスごっこ」では、子どもたちが生き物や身近なものになりきり、夢中になって遊ぶ姿が印象的でした。遊びの途中では、何が見えてきたのか、イメージしたものを言葉で伝える場も設定されていました。



生き物になりきってバスごっこ



レッツチャレンジ！
～ワクワク・ノリノリみんなであそぼう～



★5歳児★…保育者が見守る・声をかける

●ゆり組・さくら組

子どもたちが、友だちと一緒に思いきりからだを動かし、いろいろなコーナー（エリア）で試したり工夫したりして遊ぶ内容でした。年長ならではのからだの使い方をねらった環境設定が工夫されていました。からだを委ねたり、バランスをとったり、跳んだり投げたり回ったりと、夢中になって「チャレンジ」を楽しんでいました。また、牛乳パックや新聞紙などの身近な素材を活用した環境も魅力的でした。

最後は全員で「3人しっぽ取り」。ルールの確認と作戦会議をした後、3チームの対抗戦が繰り広げられました。「勝った？」「負けた？」のドキドキ感に、子どもたちの歓声が響き、笑顔が輝いていました。

助言者 柳瀬 慶子先生より（高田短期大学 子ども学科准教授）

「子どもたちが夢中になって遊べる環境をどうつくるか」

①何を、②どのように・どんな環境で子どもたちに体験させるかを保育者が深く考えることが大切であると話されました。必要なのは、「保育デザイン力」です。

どんな遊びの魅力（中心のおもしろさ）を味わわせたいのかというイメージを保育者がもち、運動のおもしろさを体感させたり、探究させたりしながら、一人一人の遊びを集団の遊びにすること、「夢中にさせること」を考えたいと強調されました。また、遊びの中で、子どもたちに自由に発想させ、保育者が見逃すことなく瞬時にとらえて援助することの重要性にも触れられました。それにより、子どもたちに「学びが共有」され、「人の遊び方（知恵）を学んで取り入れ、変容していく」ということにもつながっていきます。まさに、物的環境・人的環境が整ってこそその子どもたちの「夢中」であるといえます。

子どもたちが「夢中になれる環境づくり」を追究し続ける小俣幼稚園の保育者の皆さんの「同僚性」が光る、すばらしい取組でした。

